



がんセンター

AYA 世代支援部門について

令和5年3月より福岡大学病院がんセンターに「AYA (Adolescent and Young Adult) 世代支援部門」が設置されましたので、ご紹介させていただきます。

AYA世代とは、思春期・若年成人世代の英語の略称で、15歳から39歳までの世代のことを指します。AYA世代では、小児に好発するがんと成人に好発するがんとともに発症する可能性があり、日本では毎年がんと診断される患者さん全体の約2%（約2万人）がAYA世代になります。AYA世代がん患者さんは、中高生から社会人、子育て世代とライフステージが大きく変化する年代であるため、就学や就職、恋愛や結婚、妊娠や出産などAYA世代特有の悩みを抱えており、AYA世代がん患者さん一人一人のニーズに合わせた支援が大切



AYAサポートチーム立ち上げメンバー

- 前列左より 東 万里子（緩和ケアチーム 緩和ケア認定看護師）
四元 房典（産科婦人科学講座、主任教授・診療部長）
永見 知子（がん相談支援センター 認定がん専門相談員）
横 研二（消化器外科 助教）
松崎 洋吏（腎泌尿器外科学講座 講師）
吉永 康照（呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 診療教授）
真島 宏太（薬剤部 薬剤師）
小田真由美（化学療法センター 化学療法看護認定看護師）
村上 敏史（庶務課）

になってきます。一方で、40歳以上のがん患者さんと比べると患者数が少ないことや希少がんが多いことなどから、AYA世代がん患者さんの治療や支援の体制が充分に整っている医療施設は非常に少ないのが現状です。

これまで当院でも、AYA世代がん患者さんに対して、各診療科やがん専門相談員、緩和ケアチーム、医療ソーシャルワーカー等が個別に対応している状況でしたので、複数の診療科及び専門家と連携をとるためのAYA世代支援部門を当院がんセンターに設置し、その実働部隊として「AYAサポートチーム」を発足いたしました。主な取り組みとしては、外来を受診されたり、入院されているAYA世代がん患者さんを対象に「あなたの気持ちと気がかりについての問診表」を用いて、AYA世代がん患者さんが不

安に思っていることや困っていることをできるだけ早く把握して、それぞれの問題に対してAYAサポートチームが支援していきます。また、AYAサポートチームで定期的にミーティングや病院内ラウンドを行っており、主治医や担当看護師だけでなく、AYA世代がん患者さんの悩みに応じた専門家とも情報共有や協力しながら、AYA世代がん患者さんが治療に安心して専念できる環境を提供できるように日々取り組んでいます。



がんセンター AYA 世代支援部門 責任者
医師 四元 房典
よつもと ふさのり

Open!
当院では、各種SNSを開設しています！

公式YouTubeチャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCYwMO3PwlaDYNVvXTXUoCa>

Facebook
<https://www.facebook.com/FukuokaUniversityHospital/>

twitter
<https://twitter.com/FukuokaUnivHosp>

Instagram
<https://www.instagram.com/fukuokaunivhosp/>

福大病院 ニュース

Fukuoka University
Hospital News

2023
夏号
SUMMER

福岡大学病院開院後50年を迎えて

医学部開設には臨床教育病院が必要です。そこで1971年9月30日から現在の病院建設が着工され完成するまで、東区にある香椎病院で診療とスタッフ編成が開始されました。その翌年いよいよ七隈の地に本館が竣工し、1973年8月3日に香椎病院から患者さんと職員、医療機器など福岡市を東から西へ横切る大移動が行われました。写真は現在目にする当時の福岡大学病院の姿です。皆さんと共に50年が経過しましたが、この間に医療を取り巻く環境も大きく変化しています。特に医療のICT化や、AI、IoT、Robotなど今や病院では欠かせないものになっています。患者さんも日常診療を受けられる機会に、これらICTの

利便性を実感されることも多いと思います。また医師法の一部改正に伴い2024年4月開始が予定されている時間外労働の上限規制「医師の働き方改革」へ向けて当院の準備も整いつつあります。これは私たち医師も自己管理をしっかり行いながら、いかに患者さんへ良質な医療を提供するかが問われています。今後も時代に対応した柔軟性が病院に求められていくことでしょう。

さて50年の節目を迎える年末にはいよいよ新本館が完成します。2021年10月12日に着工し順調な建設が進んでおります。現在、新本館に装備される多くの最新大型医療機器や統合医療情報システムの更新、引っ越しに伴う作業チーム編成など様々な

プロジェクトが進んでいますので、新本館の開院を楽しみにしてください。

これまでに、医学部と連携しながら教育病院として50年が経過し、この間に多くの医師や看護師、薬剤師が社会に巣立ち、そして活躍中です。また多くの患者さんが当院で診断・治療を受けられ、信頼を寄せいただきました。私たちは、今後も皆さんの期待に応えるため職員一同で取り組んでまいります。

半世紀が経過したこの節目の時期に、振り返りと展望をまとめるため、資料を整理し、「福大病院50年誌」を作成中です。様々な時期に、この内容を紹介して福大病院をよく知っていただく機会にしたいと思います。



医師 岩崎 昭憲

いわさき あきのり



福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
TEL (092) 801-1011㈹ URL : <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



AI 診断

人工知能と画像診断

福岡大学病院放射線科では、CT検査やMRI検査、核医学検査など日々病院で撮影される検査画像を専門の放射線科医が画像診断しています。そして私たち放射線科医同士でも近年非常に多く話題に上がるのが人工知能です。

近年の人工知能の進歩は目覚しいものがあります。

すでに14種類もの人工知能技術が活用された画像診断補助ソフトウェアが日本医学放射線学会によって認証、承認されています。これらのソフトウェアは適切な安全管理の下、日々の診断に用いられています。

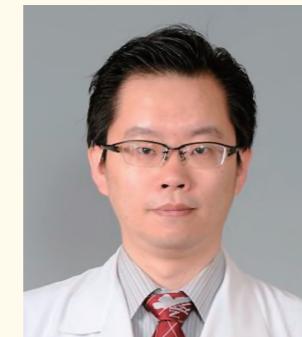
例えば、「胸部単純X線写真で肺の病変を指摘する」「胸部CTで肺の小さな病変を指摘する」「胸部CTで肋骨の骨折を指摘する」「頭部MRI画像で脳動脈瘤

を指摘する」「骨シンチグラフィーで骨の病変を指摘する」などの異常な変化を自動で指摘してくれるソフトウェアがあります。当院では胸部CTで肺の小さな病変を指摘してくれる富士フィルム社製の「SYNAPSE SAI viewer」が導入されています。これらのソフトウェアは、使用することで病変の見落としを防いでくれる等のメリットがあり、診断の大きな補助となっています。一方で、人工知能が指摘する病変は全てが正しいわけではなく、また人工知能が指摘しない病変もあります。すなわち、病変を指摘する人工知能技術はそれを使用し、管理する人間の重要性がますます増大していると言えます。

また、診断するための画像自体にも人工知能技術が用いられています。撮影された画像に

は撮影時の条件によってざらつきや線が入ってしまうといったアーチファクトが発生する現象が起り、画像診断の妨げとなることがあります。そこで、人工知能技術によりアーチファクトが画像に及ぼす影響を軽減し、画像自体をきれいにする人工知能技術が用いられます。

今後はChatGPTなどの大規模言語モデルを用いた人工知能技術も研究が進み、画像診断レポートの文章作成などで影響を及ぼしてくると思われます。現在では大規模言語モデルを用いた人工知能技術に関しては安全性等において様々な議論があると思われますが、適切な安全管理の下でより良い診断と医療のために役立ってくれると我々は信じています。



執筆者
医師 谷 知允
たに とものぶ



放射線科 診療部長
医師 吉満 研吾
よしみつ けんご

スチューデントドクター（臨床実習生）

医師法一部改正に基づく医学生の診療参加型臨床実習

令和3年5月21日に成立した「良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保を推進するための医療法等の一部を改正する法律(令和3年法律第49号)」において、医師法の一部改正が行われ、医師法第17条の2に共用試験に合格した医学生は、臨床実習において医師の監督の下、医師として具有すべき知識及び技能の修得のために医業を行なうことができる事が明記され、令和5年4月施行となりました。医学生の臨床実習における医行為が法的に位置付けられたことになり、医学生は臨床実習前に、厚生労働省が定める公的試験である医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験で、

診療参加型臨床実習に必要な医学知識を評価するCBT(Computer Based Testing)と、チーム医療に参加するための態度、基本的臨床技能を評価するOSCE(Objective Structured Clinical Examination)に合格することが求められます。

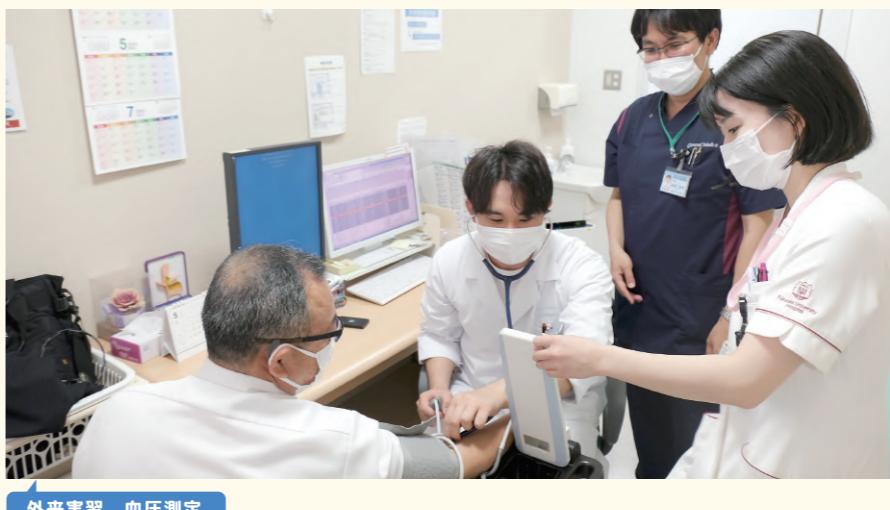
現在、福岡大学の5年生、6年生は医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験(CBT、OSCE)に合格し、スチューデントドクターの認証を受けた名札をして、福岡大学病院、福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院と、福岡市および近郊の病院で、患者さんの診療に参加しています。医師の診察の前に、医学生が患者さんの病歴を

聴くことや診察を行い、カルテの記載を行う他、指導医から患者さんに説明、監督のもとで採血などの検査や治療の介助や一部を担当します。

次世代の医師養成には指導する医師だけでなく、患者さんとそのご家族、病院内の多職種の職員の皆さんにもご協力ををお願い致します。臨床実習中は、患者さんや医師以外の病院スタッフにも、医学生の評価をお願いすることがあります。

また、臨床実習終了時には、医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する共用試験の臨床実習後OSCEと卒業試験を受験し卒業させてよいかを評価します。これらの試験に合格後医師国家試験を受験し、卒後には2年間の臨床研修を経て医師として診療に従事できるようになります。この8年間の医師養成に患者さんやご家族、病院スタッフの皆様のご理解とご協力をお願い致します。医学生が不適切な行為や不快な思いを与えるような場合は、ご遠慮なく担当医師や職員にお伝え下さい。

何卒ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



外来実習 血圧測定



多職種連携教育（薬剤部調剤実習）



医学教育推進講座 主任教授
医師 安元 佐和
やすもと さわ